

酪肉連携の府内受精卵移植事業を活用した経営向上の取り組み

中丹家畜保健衛生所

○岡本和久、岩本尚史

【はじめに】府内の和牛振興を図る子牛せり市（以下セリ市）の出品頭数が年々減少する中、当所では畜産関係団体と連携し、管内の繁殖和牛農家が繋養する高能力牛由来の受精卵を採取し、酪農家で受精卵移植（以下 ET）する取り組みにより、セリ市の活性化と酪肉経営の安定化に向けた支援を実施。【調査】平成 23 年度から令和 4 年度までの ET 成績等と畜産要因を分析。【結果】①管内和牛農家の採胚成績は、延べ 10 戸 204 頭から 4,237 個で、うち 94.6%を A 農家が占めた。採取した受精卵を、府内酪農家延べ 34 戸約 1,200 頭に移植し、437 頭を生産。生産した ET 産子は、セリ市出場頭数の約 2 割を占め市場活性化に貢献。②酪農家の ET 産子の平均取引価格は、約 10 日齢で和牛繁殖部会が実施する「入札会」で平均約 283 千円と、F1 初生牛（交雑種）よりも高く、飼料高騰等で困窮する酪農家の安定した副収入確保に貢献しており、現在、希望が急増。③A 農場の ET 産子のセリ市出品頭数割合は約 7 割と、酪肉連携による ET 活用により安定的な経営を実現。④一方、農家採胚手技の効率化を図るため、R3 からさらに過剰排卵処置方法を変更、正常胚率平均 43.7%と従来どおりの成績を確認。【今後の展望】生産者集団と府が共同で高能力和牛 ET 事業に取り組み、さらに酪肉連携を強化しながら、スマート技術などの新技術を導入し、京都生まれ京都育ちの和牛生産の推進と酪肉経営の向上を実現し「元気な京都の畜産」の復活を図る。